

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校名	校長名
川崎市立塚越中学校	渡辺 修宏

学校教育目標	今年度の重点目標
○めざす生徒像 ・主体的・対話的に学び、豊かな心と正しい判断力・実践力を身につけた生徒 ○学校教育目標 1. すこやかな心と身体を育て、思いやりのある人になる 2. 自ら学び、考え、すすんで行動できる人になる 3. 広い視野に立ち、社会に役立つ人になる	1. 生徒一人一人を正確に観察し、生徒の心に寄り添い、その生徒にふさわしい適切な指導を丁寧に行っていくように努める。(生徒理解・支援教育) 2. 授業研究を積極的にし、授業に新しい発想・考え方を取り入れ授業力の向上に努める。(確かな学力を身につける教育) 3. すべての生徒が心身ともに健康で、安心して学習でき、安全な教育環境整備を進める。(健康・安全教育、教育環境) 4. 地域・学校・生徒・保護者が一丸となって、様々な行事等を通じて、諸活動の充実・活性化につなげる。(開かれた学校づくりへの生徒の参画)

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教科・領域指導の充実	授業力の向上	社会科が、川崎市研究推進校の指定を受けて実践を行い、今年度2年目を迎えた。「主体性を育てる授業づくり」を研究主題として進めていき、どの教科にも、主体性を育てることの大切さが浸透できた。社会科が教科の要としての役割を担った。また、全ての教科で行う授業研究を通して、授業の改善が図られていった。しかし、ICTの活用と基礎力の定着が上手い/下手な授業も多々あり、改善するのを感じた。	学習部が中心になり、主体的・対話的な深い学びにつながる校内授業研究会のやり方を明確にする。また、ICTを活用した学び合いの授業を多く取り入れ、教科の枠を超えた検討会を行う。そのために、教科主任が、週1回の各教科会の運営を計画的に行うプランを示せるようにする。また、授業推進を受け続ける教員集団になるような心構えをもつ。全体研修も随時行う。
	道徳教育の推進	今年度からローテーション道徳を行い、全ての教職員で、道徳の授業を実施した。同じ教科を何度も行うことにより、課題が見つかり、授業改善が図られた。しかし、道徳の授業が苦手な担任がいるため、授業の温度差が生まれてしまった。また、日々の業務に課殺されるため、道徳の授業研究を後回しにする傾向が見られた。	教務部では、金曜日の1時間目の道徳は、週35時間必ず行う。行事によって、変更があっても、道徳の時間をどこかで戻すようにする。また、道徳推進部が、道徳勉強会の時間を確保し、資料の読み合わせ、中心発問の検討を念入りに行う。ローテーション道徳の長所を生かす。授業後、すぐに授業の振り返りが出来るように学年単位で工夫をする。
	総合的な学習「平和学習」の推進	学年ごとに、3年間のプランを立て取り組んでいる。2年生は、校外学習において、平和に関する施設を見学することを実践した。事後学習で、戦争の恐ろしさを表現する生徒が多かった。学習と体験を結びつけるとも良い学習につながっている。しかし、テーマの範囲が広いため、ねらいをしつかり吟味する必要がある。	塚越中の総合的な学習「平和学習」プランが、学年に任せられている。2年生は、校外学習で平和記念館等を見学し体験と結びつけた学習を行ったが、3年生は、昨年の3年生のような「平和学習」の計画が練られていない。担当教諭が、よく話し合い、各学年のプランを定ませ、3年間で、生徒達が命の重みや平和の尊さを感じることを目指す。
2 生徒指導の充実	生徒指導の充実	年2回の教育相談の進め方研修を行い、一人一人の微弱な声を聞き逃さないようにすることができた。しかし、教員の力量に差があるため、子どものSOSを正確にキャッチできない事例もあった。「ほめる指導・温かい聴き方・やさしい話し方」を意識して生徒指導にあたることができたが、一部では、まだ高圧的な指導になってしまっていることがある。	教育相談の中で、SOSを出してくる生徒がいた。その内容をきっかけに、生徒指導担当を中心に対応することが出来たので、来年度は、年3回の教育相談を年間計画に定める。また、時期も、SOSが出てきそうな時期に計画する。どんな小さな事も、学校全体で組織的に動き、初期対応で間違えが起きないように、慎重に進めていく。報告・連絡・相談のしやすい環境を作る。
	あらゆる立場の生徒への「支援教育」と「特別支援教育」の充実	学習室を設置して、不登校生徒の支援に役立っている。支援coの運営と、時間割上で教員2名が随時配置して対応に当たっている。校内の不登校生徒の数は減少しているが、学習の質を高めているのが課題である。主任のリーダー力で、特別支援の教員同士のチームワークはとも良くないが、特別支援級の生徒の個々の能力を高めていることが出来ているが課題である。	学習室は支援コーディネーターが運営を行い、生徒に応じて適切な指導を行っている。年3回以上の教育相談期間を年間計画に入れ、子どものSOSを早めにキャッチする。また、オンラインに頼らず、担当教員自ら授業を行い、生徒の困り感や学習の質を高めていく。特別支援級において、サポートノートを通して、保護者と密接に話し合う教育相談を随時行っている。
3 特色ある教育活動の充実	小中連携教育	子ども会議や中学校体験授業を通して、小中の交流を深めた。また、教職員同士も、授業参観や異校種体験を行うことで、お互いの困り感を共有できた。課題としては、子ども達の文化的な交流を増やし、特別活動の観点で、リーダー達を動かしていきたい。また、9年間の学びを意識した学習体系をつくり上げたい。	9年間を通した繋がりのある教科指導を行う。例えば、英語では、どの程度まで、小学校で学んできているのか、入学前に小学校の先生と打合せを行う。教科に分かれて分科会を開き、課題を出し合う。また、特別活動では、リーダー育成力をつける。児童会のリーダーが、生徒会役員で活躍するような流れを作りたい。そのために、小中のリーダーが協力して、一つの行事を行う必要がある。
	特別活動の推進	体育祭、合唱コンクール、文化祭と大きな行事を通して、生徒会を中心にリーダー育成ができ、生徒たちは自ら進んで考え主体的に取り組めた。また、夏休みに実施した校内リーダー研修会で、よりリーダーとしての意識改革を目指せた。課題としては、生徒会が主体的に企画して、学校全体を動かす事を何度もリーダー達に成功体験をさせたい。	来年度、特別活動の推進を学校運営の要にしていきたい。生徒主体の朝学活、朝の会の運営、学年運営、異学年での運営を特活部が企画し指示を出す。生徒会が主体的に動いていく学校にしたい。生徒会が作る学校にしたい。
4 特色ある教育活動の充実	読書活動の充実	「朝読書」をカリキュラムとして位置づけ4年目になり、生活の一部として読書活動が定着しつつある。学校生活も落ち着いて過ごすことが出来、心の成長にもつながっている場面が見られた。今年度より、図書委員会が、「空飛ぶ図書館」という企画を打ち出し、昼休みに各学年の廊下で、図書を選び、より多くの生徒達に読書の楽しさを体験させた。課題は、本が嫌いな生徒をどれだけ好きにさせられたかが問題である。	朝読書の10分間は、年間に換算すると年間10回読書活動にあてることができる。そして、読書から想像力を養うことができる。そして、教職員も一緒に本を読み、読書を楽しむことが原則である。学校図書館の利用促進や図書ボランティアの力を借りながら、心を豊かにする読書活動を進めて行く。
	健康・安全教育の推進	東日本大震災の経験に十分に生かした。避難訓練、地震訓練や集団下校の実施出来た。その訓練を通して、自他の命を守る事の大切さを教えられた。学校給食では、配膳準備の際の服装指導も清潔・安全の観点から徹底的に指導を行った。また、残食率を示すことにより、栄養バランスの大切さ、感謝の気持ち、命の尊さを学ばせることができた。	避難訓練や地震訓練の回数が少ない。実践により近づけた訓練を実施する。そのためには、より細かい要項が必要である。また、部活動での怪けが多いため、顧問は、運動に適した環境なのかを随時判断し、事故、怪けが起きない環境を毎日点検する。また、栄養バランスの授業を取り入れ、健康な状態に保つ努力をする。
5 地域との連携	地域との連携	マンション群が立ち並ぶ中、地域との連携に苦慮する立地にあるが、保護者や地域の方々への学校行事の積極的な参加を促すことができた。また、部活動での発表等で、地域の人々と関わる事ができた。課題は、さらに、地域の方々の参加や外部人材を校内に招く事を多く取り入れたかった。	オープンスクールを開き、いつでも地域の方や保護者の方が学校に来校できる環境をつくる。その活動を、コミュニティスクールを通して行う。また、部活動の発表の場を地域にも広げ、幅広く、学校の運営や、生徒の活動をアピールし、協力と理解に努める。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
常日頃から、地域、PTAO会の方々に学校の様子を参観していただいた。部活動等で生徒の活動が目立つので、概ね、学校に対して好印象を持っていただけた方がほとんどでした。学校評価アンケートでは、保護者と子どもの意識の違いが多く見られた。	授業力向上は、拡大要請訪問、社会科推進校2年目の発表を要し、校内授業研究の充実が図られた。道徳教育では、ローテーション授業が定着し、全員で道徳を行う展開に変化した。また、同じ資料で3回授業を行うので、資料の検討に時間をかけた。生徒指導の充実では、教育相談研修で進め方を学び、年2回の教育相談を行った。そこから、生徒の悩みを解決することができた。また、教師と生徒がじっくり話ができ、生徒の困り感を分かちあうことができた。読書活動は、空飛ぶ図書館というネーミングで、昼休みに、各学年の廊下に本を持っていき、本を手取る環境を作り、読書活動の推進が進んだ。来年度、授業力向上において、どの教科も、より多くICTを活用して、ICT研修を行い、学び合いを深めていきたい。また、特別活動では、系統的にクラス運営を行い、コミュニケーション能力の向上に努めたい。